

# 寺沢志摩守広高(てらさわしまのかみひろたか) (1/2)

～城下町唐津の土台づくりをした人～

唐津は、江戸時代の城下町の町名や町割りなどがほとんど変わらずに残っています。米屋町・魚屋町・呉服町などの町名を聞くと、江戸時代に生き生きと米や魚、呉服を商ったりしている人々の姿が浮かんできませんか。唐津城を築き城下町唐津の基礎づくりをした人が、唐津藩初代藩主の寺沢志摩守広高です。

志摩守は永禄6年(1563年)尾張国(愛知県)に生まれました。はじめは織田信長に仕えていましたが、やがて豊臣秀吉の家臣となり、秀吉の朝鮮出兵の時は、秀吉お気に入りの武将として加藤清正や小西行長らと名護屋城築城にたずさわるなど活躍しました。

唐津東松浦地方は、岸岳城主波多三河守親の領地でしたが、三河守は秀吉の怒りを受け領地を没収され滅亡します。その後を受けてこの地方を治めるようになったのが志摩守でした。志摩守は、この地方を発展させるためには唐津湾に面した場所に城づくりをするほうが良いと考えました。そこで、名護屋城築城のときに砦(とりで)を構えたとみられる場所に唐津城を築くことにしました。城は慶長7年(1602年)から7年の歳月をかけて完成したといわれています。

志摩守は、城を築く時、松浦川・波多川(徳須恵川)・神田川(町田川)の流れを変えて、川口を一筋にする大工事を行っています。古い記録によれば、松浦川は下流で東西にわかれ、一方は鏡山のふもとを通り玉島川と合流し、もう一方は西へ流れて、今の城内二の門堀の所から海へ注いでいました。波多川は養母田の山すそを通り和多田から唐津商業高校(元石町)の裏の谷間を流れ、愛宕山の下を通り唐人町で二手にわかれ、一方は二の門堀の方へ、もう一方は菜畑で神田川と合流してニタ子の江ノ尻から海へ注いでいました。

志摩守は松浦川と波多川を養母田の川原屋で合流させ、川幅を大きく広げて和多田の方へ流し、満島山(唐津城本丸)の東ふもとの砂州(砂浜が道のように細長く続いている所)を切り開いて海へ注ぐようにしました。また、長松より菜畑を通りニタ子の江ノ尻で海へ注いでいた神田川を町田川と改名し、流れを東の方に変えて松浦川の川口に合流させ、今のような川の姿にしました。これにより、これまで雨が降るたびに洪水になやまされていた土地を城下町の一部や実りの多い田畑に変えることに成功しました。

～2/2へつづく～

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



唐津城  
守りやすい川口の地形を利用して築城されている



松浦川・波多川・神田川  
—昔の流れと今の流れ—

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献(出典)

◆『郷土につくした人々』  
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 寺沢志摩守広高(てらさわしまのかみひろたか) (2/2)

～城下町唐津の土台づくりをした人～

～1/2からつづく～

このような川の大工事には多くの農民たちが働きましたが、1番の難工事は松浦川の川口近くの堤防工事でした。この場所は海に近いので、潮が逆流して水量が増えるところです。また、波多川は松浦川と合流するところでもあります。ここで、松浦川を西に曲げる工事をしなければなりません。何度堤防を築いても水の勢いで流され、工事は失敗の連続でした。困り果てた志摩守は人柱（難工事を成功させるためいけにえとして生きた人を水底や土手に埋めること）を立てることにしましたが、人間の命の尊さを説く安養寺（東唐津）の宝誉上人の進言を聞き入れ、人柱のかわりにこれまで松浦川の洪水でなくなった多くの人々の霊を供養するために千本の柱で塔婆（お経を書いた細長い板）をつくり、これを土手に埋め仏の力を信じて堤防を築くことにしました。こうして長さ788間（約1400延米）にもおよぶ堤防工事はみごと完成したのでした。工事の成功を喜んだ志摩守は、近くの松原に千仏院を建て千体の阿弥陀仏（高さ約20呎）を祀り上人に感謝しました。堤防が築かれた付近は千人塚と呼ばれています。

志摩守は唐津城の築城と同時に、城下町づくりに取りかかりました。寺沢時代の城下町絵図を見ると、現在城内と呼んでいる侍屋敷のあった二の丸や三の丸ばかりでなく、内町と呼ばれる町人の住んだ町も堀で囲み、木戸（出入口）は東の札の辻、西の名護屋口、南の町田口に限られています。これは敵の攻撃に備えた城下町づくりであったことをうかがわせます。

内町は東西と南北に規則正しい道路が設けられ、新町・八百屋町・米屋町・呉服町・中町・本町・木綿町・紺屋町・横町・鷹師町の名が見られます。札の辻橋を越えた東の外町には、材木町・塩屋町・魚屋町・大石町・水主町などがあり、名護屋口を出た西側には寺町・弓町・のぼり町・鉄砲町（後の江川町）の名が見られます。

多くの困難を乗り越えて松浦川の大改修を行い、唐津城と城下町づくりに取りくんだ志摩守の功績は、彼が植林したといわれる虹ノ松原の美しいながめと共に未長く私達の心に残ることでしょう。

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



現在の千人塚付近



寺沢氏の頃の唐津城下絵図

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』  
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html)